柊塚古墳（朝霞市）

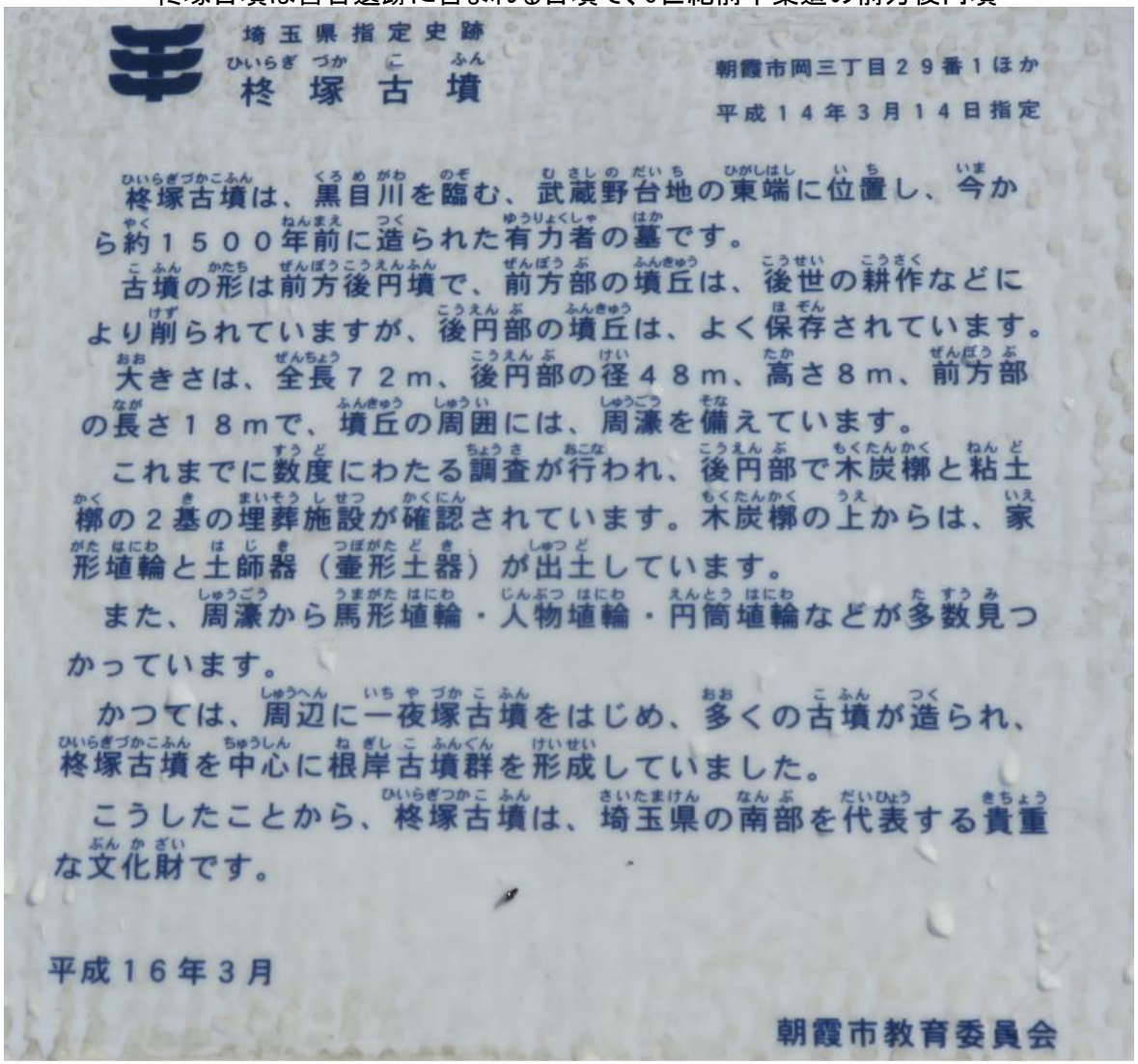
ひいらぎづか

柊塚古墳は「柊塚古墳歴史広場」として保存・整備されている　（クリックしてビデオを見る）

説明板等がある　（クリックしてビデオを見る）

柊塚古墳の模型が展示されている

柊塚古墳は宮台遺跡に含まれる古墳で、6世紀前半築造の前方後円墳



埼玉県指定史跡

柊塚古墳

朝霞市岡三丁目２９番１ほか

平成１４年３月１４日指定

柊塚古墳は、黒目川を臨む、武蔵野台地の東端に位置し、今から約１５００年前に造られた有力者の墓です。

古墳の形は前方後円墳で、前方部の墳丘は、後世の耕作などにより削られていますが、後円部の墳丘は、よく保存されています。

大きさは、全長７２ｍ、後円部の径４８ｍ、高さ８ｍ、前方部の長さ１８ｍで、墳丘の周囲には、周濠を備えています。

これまでに数度にわたる調査が行われ、後円部で木炭槨と粘土槨の２基の埋葬施設が確認されています。木炭槨の上からは、家形埴輪と土師器（壺形土器）が出土しています。

また、周濠から馬形埴輪・人物埴輪・円筒埴輪などが多数見つかっています。

かつては、周辺に一夜塚古墳をはじめ、多くの古墳が造られ、柊塚古墳を中心に根岸古墳群を形成していました。

こうしたことから、柊塚古墳は、埼玉県の南部を代表する貴重な文化財です。

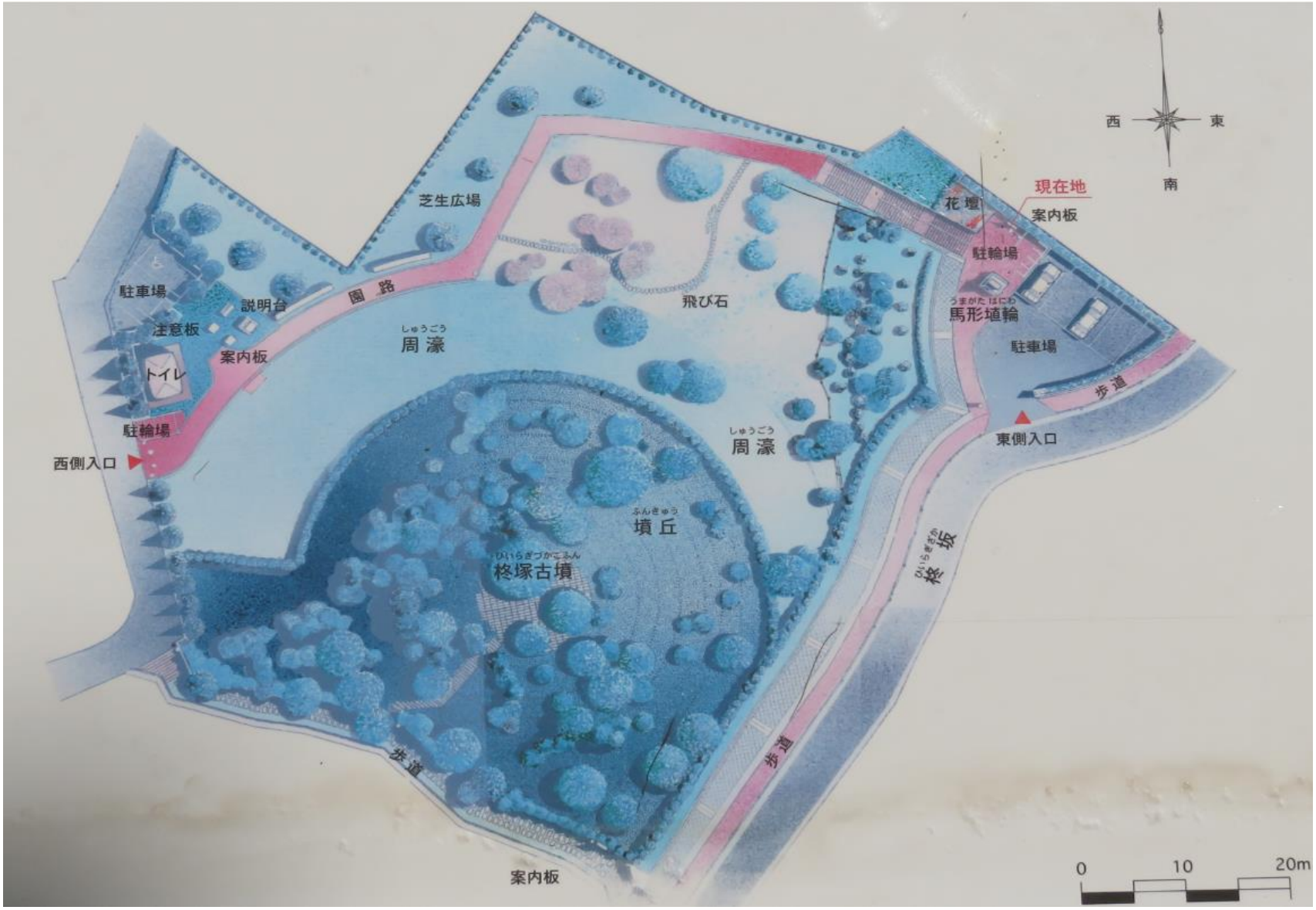
平成１６年３月

朝霞市教育委員会

墳丘の周りには幅6～15mの周濠が巡る/周濠にはスロープ状の施設が2ヶ所（模型の左手と上部に見て取れる）あったと云う

周濠は前方部前面で途切れている

柊塚古墳の墳形図/左下の前方部は、ほとんど破壊されてしまっているが、後円部と、くびれ部の辺りがほんの少し残存している



後円部を見たところ/右手前がくびれ部・前方部

芝生は周濠跡に植えられている

後円部を見たところ/右奥がくびれ部・前方部　（クリックしてビデオを見る）

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

後円部からくびれ部・前方部方向を見たところ　　（クリックしてビデオを見る）

くびれ部の辺りから前方部にかけての状況/この先の前方部は大きく削られてしまっている

くびれ部の辺りを正面から見たところ

前方部の辺りから、くびれ部・後円部を見たところ

くびれ部をアップで見たところ　（クリックしてビデオを見る）

さて、広場から北東方向を見ると、眼下に黒目側が見える/柊塚古墳が高台に築かれていることが見て取れる

そこにある階段を下りて見上げたところ/馬型埴輪のレプリカや説明板が見える　（クリックしてビデオを見る）

柊塚古墳から出土した馬型埴輪のレプリカらしい

標柱と説明板

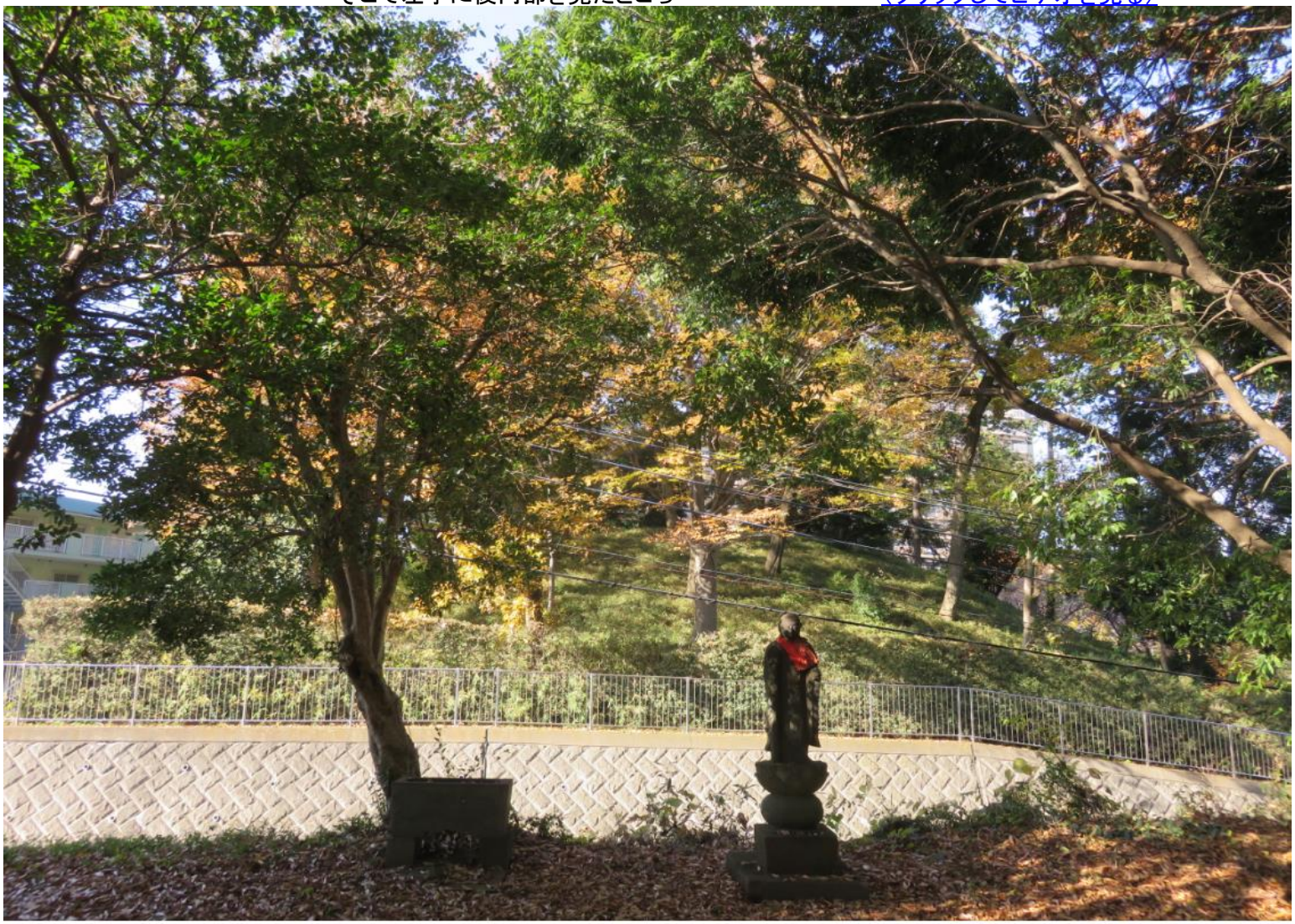
そこで振り返って南西方向を見たところ/右上が柊塚古墳の後円部/正面の道路は柊坂と言うらしい

その柊坂を登って振り返って見たところ/左手が後円部/坂を下ると黒目川で、すぐ東で新河岸川と合流している

柊坂の右上にはお堂があった

こんな塩梅

そこで左手に後円部を見たところ　（クリックしてビデオを見る）



さて、後円部に沿った遊歩道をくびれ部方向に進んでみよう　（クリックしてビデオを見る）

遊歩道の折れた付近がくびれ部辺りか・・・　（クリックしてビデオを見る）

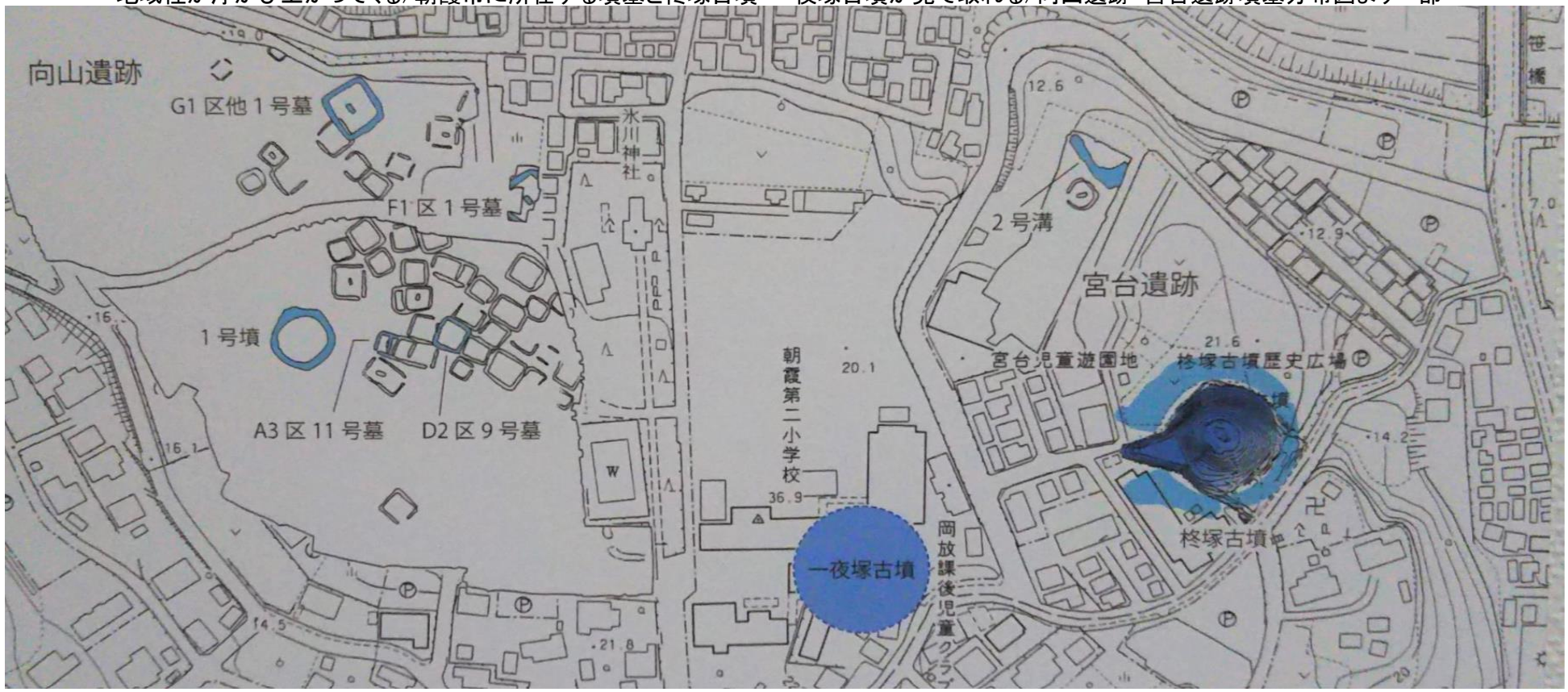
こんな塩梅

反対側から見たところ　（クリックしてビデオを見る）

さて、ここは朝霞市博物館

最近リニューアルされたばかりで、それに合わせた企画展が開催されていた/朝霞地域に於いて、前方後円墳出現前に時代の幕を開けたものは何だったのか、また、その頃の墳墓はどのように変遷したのかを、時代の変革を語る墳墓出土の土器を中心に考察するという展示

土器を丹念に考察することにより、関東さらには朝霞地域の側から見る古墳の出現の様相、そして、時代の幕開けに関わる人の動きや地域性が浮かび上がってくる/朝霞市に所在する墳墓と柊塚古墳・一夜塚古墳が見て取れる/向山遺跡・宮台遺跡墳墓分布図より一部



向山遺跡

向山遺跡は、黒目川右岸の台地上に位置し、大規模な調査により古墳出現に関わる墳墓の変遷を追うことができます。方形周溝墓は弥生時代中期後半から見られ、古墳時代前期にかけて群を成しています。

古墳時代前期には大型のものが出現し、G1 区他 1 号墓は方台部長軸約 15m を測ります。中央の埋葬施設からは鉄剣やガラス玉が出土しました。周溝から出土した複数の壺は無文で底部には焼成後と焼成前の穿孔が認められます。G1 区他 1 号墓とその南東にあるF1 区 1 号墓はおよそ同規模と見られ、方台部長軸 15m級の２基が墓域中で突出しています。

この後出として注目されるのが円墳とされる 1 号墳で、周溝上場内側での最大径は約 18 mを測ります。出土土器は G1 区他 1 号墓のものより明らかに新しく、方形周溝墓の造墓の延長にはない墳墓と考えられます。土器の様相は、これまで見てきたような東海西部系を中心とする多方面の影響は弱まり、近畿地方からの影響が強くなっていることから、向山の人々が新たな交わりに基づく墳墓の造営を始めたことが推測されます。実は、この動きは先の比企、児玉地域など主要な古墳分域においても認められ、前方後方墳や方形周溝墓群は前方後円墳や円墳に転換するかのように、弥生以来の造墓が止まります。古墳時代の幕を開ける原動力となった東海西部地方発の大交流の痕跡は土器作りの技法や墳墓の特徴から見られなくなっていきました。

後に大型円墳の一夜塚古墳（6 世紀・伝墳径約 50m）が出現する向山遺跡で、近隣地域に先駆けて円形規格の墳墓が造られ始めたということは注目されます。

宮台遺跡

宮台遺跡は、黒目川右岸の台地縁辺部に位置し、遺跡範囲には６世紀の前方後円墳、柊塚古墳を含んでいます。

このうち第４地点の溝状遺構は前方後方墳周濠である可能性が指摘されており、指摘どおりだとすると、後方部墳長 18～19m前後が見込まれる規模となります。

土器の帰属関係は精査を要しますが、出土した壺、小型壺などが示す時期は、古墳時代前期でも後半と考えられます。東海系土器とともに前方後方形墳墓が東日本にひろがった時期のものではありませんが、向山遺跡１号墳との関係が留意されます。

一夜塚・柊塚を中心とする根岸古墳群の成り立ちと変遷を解き明かすうえで注目の事例と言えます。

(3) 底に孔を開けた壺
～方形周溝墓から柊塚古墳まで～

方形周溝墓から古墳へ、この変遷に伴うものの一つとして、底に孔を開けた壺があります。壺の実用性を無くすこの孔は、墳墓での葬送儀礼に関係するものと考えられています。

飲食行為が想像されもするこの儀礼では、始めは使った壺の穢れを断つためか底を打ち欠くなどして孔を開けていましたが、次第に焼上げ前から孔を開けるようになり、壺を儀礼用に特化させていきます。前者は焼成後穿孔と呼ばれ弥生時代から、後者は焼成前穿孔と呼ばれ古墳出現期から見られます。特化が進んだ壺は、やがて古墳専用の焼き物「埴輪」へと繋がっていきます。この変化は時期的指標になるとともに、葬送儀礼の変化をも意味すると言えるでしょう。

朝霞でも底部穿孔壺を伴う葬送儀礼は定着していたようで、西久保・宮山例のような弥生時代後期の方形周溝墓出土の壺には焼成後穿孔が、向山G1 区他 1 号墓例のような古墳時代前期の方形周溝墓では焼成前穿孔が認められ、その変遷が見て取れます。

後に続く向山 1 号墳出土の土器群には底部穿孔は見られず、その伝統は途絶えたかに思われました。しかし、古墳時代後期の柊塚古墳墳頂部において、再びその痕跡を目にすることになります。家形埴輪とともに墳頂部で出土した 1 点の壺はまさに焼成後穿孔がなされたものでした。

東海地方、近畿地方等と交わりを重ね墳墓やそれに伴う土器を変容させている中、壺の底に孔を開けるという弥生以来の儀礼が、埴輪の配置された朝霞地域の盟主墳たる前方後円墳の頂きで行われていたことは大変興味深いところです。

向山遺跡Ｇ１区他１号墓出土壺の底部穿孔

方形周溝墓から古墳へ

方形周溝墓から古墳へ、この変遷に伴うものの一つとして、底に孔を開けた壺があります。壺の実用性を無くすこの孔は、墳墓での葬送儀礼に関係するものと考えられています。

飲食行為が想像されもするこの儀礼では、始めは使った壺の穢れを断つためか底を打ち欠くなどして孔を開けていましたが、次第に焼上げ前から孔を開けるようになり、壺を儀礼用に特化させていきます。前者は焼成後穿孔と呼ばれ弥生時代から、後者は焼成前穿孔と呼ばれ古墳出現期から見られます。特化が進んだ壺は、やがて古墳専用の焼き物「埴輪」へと繋がっていきます。この変化は時期的指標になるとともに、葬送儀礼の変化をも意味すると言えるでしょう。

朝霞でも底部穿孔壺を伴う葬送儀礼は定着していたようで、西久保・宮山例のような弥生時代後期の方形周溝墓出土の壺には焼成後穿孔が、向山G1 区他 1 号墓例のような古墳時代前期の方形周溝墓では焼成前穿孔が認められ、その変遷が見て取れます。

後に続く向山 1 号墳出土の土器群には底部穿孔は見られず、その伝統は途絶えたかに思われました。しかし、古墳時代後期の柊塚古墳墳頂部において、再びその痕跡を目にすることになります。家形埴輪とともに墳頂部で出土した 1 点の壺はまさに焼成後穿孔がなされたものでした。

東海地方、近畿地方等と交わりを重ね墳墓やそれに伴う土器を変容させている中、壺の底に孔を開けるという弥生以来の儀礼が、埴輪の配置された朝霞地域の盟主墳たる前方後円墳の頂きで行われていたことは大変興味深いところです。

これは柊塚古墳から出土した円筒埴輪（左手）と家形埴輪

柊塚古墳について

古墳時代は、３世紀中頃から７世紀頃にかけて、古の王たちが墳丘を濠で区画した巨大な墓、古墳を造った時代とされています。その始まりは弥生時代には見られない前方後円墳の出現をもって画され、前方後円墳は列島各地にひろがります。奈良県桜井市の箸墓古墳（奈良県桜井市全長 280m）は始まりの前方後円墳として著名で、時代区分の主要な指標になっています。ところが、ひろがりといっても、実際には各地の始まりの前方後円墳が時代の幕開けの指標になるかというと必ずしもそうではありません。

朝霞地域の前方後円墳としては、柊塚古墳（埼玉県指定史跡）が知られています。墳長約 66m、後円部径約 48 mを測り、主体部は粘土槨、木炭槨の 2 箇所が推定されています。墳頂からは壺形土器と家形埴輪が、周濠からは古墳の聖域を区画していたであろう円筒埴輪、人物、馬形等の埴輪が見つかっており、それらの特徴から築造年代は６世紀前葉と考えられています。柊塚古墳は荒川下流域で現存する稀少な前方後円墳ですが、当然ながら古墳時代の始まりを告げるものでありません。

周辺地域を見渡しても始まりの指標となる前方後円墳は見当たらず、朝霞における古墳時代の幕開けを探るには、前方後円墳以外のものに目を向けた方が良いようです。

参考ホームページ

https://www.city.asaka.lg.jp/soshiki/42/sitei-hiiragiduka.html

https://massneko.hatenablog.com/entry/2016/09/13/063000

https://ameblo.jp/omicankorokoro/entry-12412110624.html

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/08_aska/hiragi.html

http://keny72.blog.fc2.com/blog-entry-82.html?sp

志木市立志木小
柳瀬川
ユリノ木通り
本町
朝霞市立第五中
宮戸大山公園
荒川
S5
北戸田
彩湖道満
グリーン
パーク
美女木
5
志木
新河岸川
254
戸田西IC
戸田
彩湖
北大通り
戸田
立教大
113
三原公園
柊塚古墳
東圓寺
109
298
戸田南
二本松公園
根岸台自然公園
79
荒川
座
野火止
40
末無川（バス）
朝霞
レインボー
モータースクール
88
昭和通り
埼玉県 朝霞警察署
C3
成増厚生病院
新座市
和光市